

欧州かわら版

進化するパリ

目指せ！ロンドンに代わる金融センター

英国の欧州連合（EU）離脱に伴い、EU加盟国間ではロンドンに代わる「欧州の金融センター」の座をめぐる、金融機関の誘致合戦がヒートアップしています。

Post-Brexit（英国のEU離脱後）の金融センターの有力候補地であるパリを有するフランス政府は、2017年7月「パリの金融センター化に向けたフランスの野望」を発表し、様々な改革に着手する姿勢を鮮明にしています。

「パリの金融センター化に向けたフランスの野望」 主な改革案

2022年までに法人税率を25%に引下げ（現行33.3%）

予定していた金融取引税の拡充を取りやめ

労働法の改正（より分かりやすく、シンプルに）

パリ控訴院内に、国際ビジネス訴訟に特化した部門の創設

インターナショナルスクールの増設

（出所）フランス政府のwebサイト等をもとに、NNインベストメント・パートナーズ株式会社作成

実際、英銀のHSBCがロンドンに勤務する従業員の一部をパリへ異動させることを決めたり、EU機関の一つで、ロンドンに本部を置く欧州銀行監督機構（EBA）のパリ移転が決定したりしています。今後もフランス政府は、ライバル都市であるフランクフルト（ドイツ）、アムステルダム（オランダ）、ダブリン（アイルランド）等としのぎを削りながら、パリをより魅力的な金融センターにするための努力をして行くと思われれます。

直近150年で最も野心的な都市整備プロジェクト

「グラン・パリ計画」進行中

フランス政府は、パリ首都圏の都市整備にも積極的で、2010年6月に「グラン・パリ法」を制定しました。これは、パリ首都圏をニューヨークやロンドンに匹敵する経済都市にするため、公共交通網の整備とそれに付随する地域開発計画を法制化したもので、その予算規模は350億ユーロにのぼります。

一方で、2010年当初よりも建設コストが1.5倍に膨れ上がったことや、パリが2024年の夏季五輪の開催地に決定したことによる財政逼迫の懸念から、計画縮小の動きもあるようです。しかし、グラン・パリ計画はマクロン大統領にとって

最優先事項であることに加え、五輪開催に向けた公共交通網の整備は避けては通れない課題ですので、計画縮小の可能性はあるものの、インフラ整備が進んで行くことは間違いなさそうです。

「グラン・パリ計画」の概要

地下鉄路線整備計画「グラン・パリ・エクスプレス」

- ・ 既存14路線の近代化
 - ・ 全自動無人運転方式による4路線の新設（15～18番線）
 - ・ 11、14番線の延長
- 3つの空港とTGV（フランスの新幹線）駅を結ぶ、全長200km超、72駅、1日の乗客200万人に及ぶ交通網

年間7万戸の新規住宅建設

ベンチャー企業の育成や外資誘致のため、パリ郊外にある7つの産業クラスターを拡充

（出所）JLL Grand Parisのwebサイト等をもとに、NNインベストメント・パートナーズ株式会社作成

ヴェルサイユ宮殿に泊まれるチャンス到来？！

進化するパリにちなんだ面白いトピックスがもう1つ。パリ郊外にある、世界で最も有名な宮殿「ヴェルサイユ宮殿」の一部が最高級ホテルとして2019年夏にオープン予定だそうです。ホテルとして使用されるのは、宮殿の左側にあるグラン・コントローレ、プチ・コントローレ、パピヨン・デ・プルミエ・サン・マルシュと呼ばれる3棟で、ルイ16世の在位中は財務を司る役所が置かれていました。

国からの補助金が減る中、フランスの重要文化施設は独自の資金調達を模索しており、この計画もその一環。宮殿を管理するヴェルサイユ宮殿美術館国有地公団は、2015年8月にこの3棟の活用を巡る入札を呼びかけ、審査の結果、フランスのホテルグループ、ロブ・ホテル・コレクションとフランス料理の有名シェフ、アラン・デュカス氏の合同事業体が60年間賃貸することになりました。

計画発表当初の予定では、客室は20室、改修費用は2500万ユーロとのこと。2024年のパリ五輪では、ベルサイユ宮殿で馬術競技が行われる可能性があり、この高級ホテルがフランスの好感度アップに貢献する未来予想図も垣間見えます。

※写真はヴェルサイユ宮殿の一部（ロブ・グループのパンフレットより）



上記の予測・見解等は作成時点のものであり、予告なしに変更されます。巻末の本資料の注意事項を必ずご確認ください。

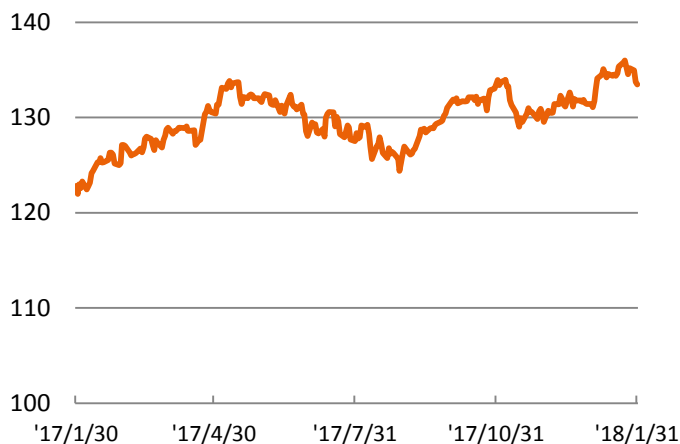
●先月の欧州市場

1月の欧州株式市場はユーロ圏市場が堅調に推移しました。順調な景気拡大を背景に世界的に株式市場への資金流入が続く中、ドイツの鉱工業生産などのマクロ経済指標が市場の予想を上回ったことも好感されて上昇基調で始まりました。中旬以降はユーロ高が重石となったものの、連立政権樹立に向けた協議が前進したことや景況感指数の上昇を受けてドイツDAX指数は23日に史上最高値を付けました。その後は好調な企業業績が発表される一方、ユーロ高を受けて月末にかけて軟調に推移しました。英国市場も前半はFTSE100指数の高値更新が続きましたが、英ポンド高が続いたことや政治的な不透明感から前月末比で下落となりました。リート指数は金利上昇を受けて反落しました。

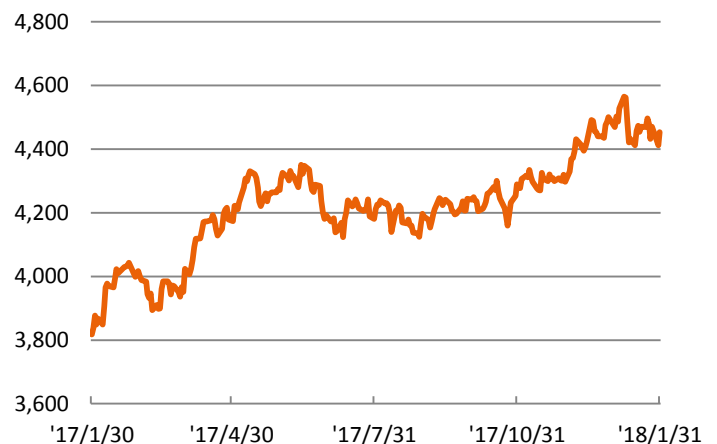
欧州債券市場は、株価の上昇に加えて米国債の利回り上昇（価格は下落）を受けて軟調に推移しました。ユーロ圏では、市場の予想を上回る経済指標の発表が多かったことや、欧州中央銀行（ECB）の高官から量的緩和策（QE）の解除に向けた発言が増えたことも背景となりました。英国ではGDP成長率が市場の予想を上回ったことも利回り上昇の要因となりました。

外国為替市場で欧州通貨は堅調に推移しました。欧米ともに金利は上昇したものの、欧州の経済指標が予想を上回る強さだったことに加え、ECBの政策理事会の議事要旨の発表を受けて金融緩和姿勢の変更が早まるとの観測が出たことがユーロ上昇の要因となりました。英ポンドも金利上昇を受けて2016年の国民投票後の高値を更新しました。

欧州株式市場の推移
(2017年1月末～2018年1月末)



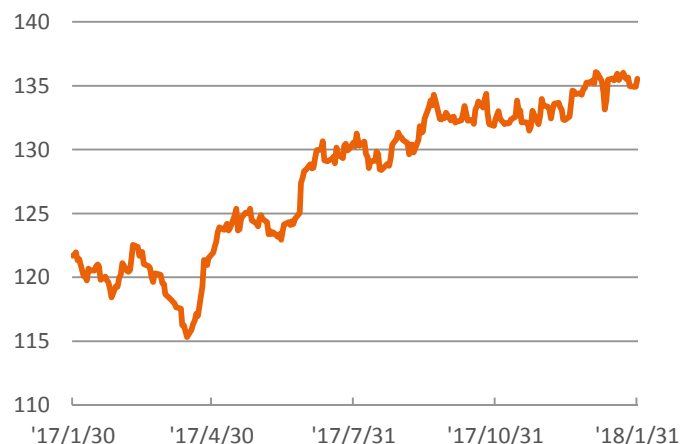
欧州リート市場の推移
(2017年1月末～2018年1月末)



ドイツ10年国債利回りの推移 (%)
(2017年1月末～2018年1月末)



ユーロ/円の推移 (円)
(2017年1月末～2018年1月末)



出所:ブルームバーグ等のデータをもとにNNインベストメント・パートナーズ株式会社作成

欧州株式: MSCIヨーロッパ指数 (ユーロベース) 欧州リート: FTSE EPRA/NAREIT Developed Europe Index (配当込み、ユーロベース)

上記は作成時点のものであり、将来の運用成果または投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。上記の予測・見解等は作成時点のものであり、予告なしに変更されます。巻末の本資料の注意事項を必ずご確認ください。

● 欧州市況データ

基準日：2018年1月31日		基準日終値	騰落率（現地通貨ベース、利回りは変化幅）			
			1ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	1年
リート	欧州リート	4,453.70	-1.0%	3.8%	6.5%	16.1%
	（ご参考）米国リート	6,437.90	-4.2%	-1.4%	-2.9%	0.1%
株式	欧州株式	133.46	1.6%	0.0%	4.6%	9.4%
	ドイツ株式	13,189.48	2.1%	-0.3%	8.8%	14.3%
	英国株式	7,533.55	-2.0%	0.5%	2.2%	6.1%
為替 （対円）	ユーロ	135.55	0.2%	2.4%	3.8%	11.3%
	英ポンド	154.97	1.7%	2.7%	6.4%	9.2%
	（ご参考）米ドル	109.19	-3.1%	-3.9%	-1.0%	-3.2%
10年国債 利回り	ドイツ	0.70%	0.27%	0.33%	0.15%	0.26%
	英国	1.51%	0.32%	0.18%	0.28%	0.09%
	（ご参考）米国	2.71%	0.30%	0.33%	0.41%	0.25%
欧州ハイイールド債利回り		2.84%	-0.00%	0.41%	0.16%	-0.56%

欧州リート：FTSE EPRA/NAREIT Developed Europe Index（配当込み、ユーロベース）
 米国リート：FTSE EPRA/NAREIT United States Index（配当込み、米ドルベース）
 欧州ハイイールド：ICE BofA Merrill Lynch・欧州ハイイールド・コンストレインド（除く金融劣後債）

欧州株式：MSCIヨーロッパ指数（ユーロベース）
 ドイツ株式：DAX指数（ユーロベース）
 英国株式：FTSE100指数（英ポンドベース）

● 今月の主な予定

日付	国・地域	イベント	データ期間	日付	国・地域	イベント	データ期間
2月5日	ユーロ圏	小売売上高	12月	2月20日	ドイツ	ZEW景況感指数	2月
2月6日	ドイツ	製造業受注	12月	2月21日	ユーロ圏	消費者信頼感	2月
2月7日	ドイツ	鉱工業生産	12月	2月21日	英国	ILO失業率	12月
2月8日	英国	BOE金融政策委員会		2月22日	ドイツ	IFO企業景況感指数	2月
2月9日	英国	鉱工業生産	12月	2月22日	英国	GDP成長率	第4四半期
2月13日	英国	消費者物価指数	1月	2月27日	ユーロ圏	景況感	2月
2月14日	ドイツ	GDP成長率	第4四半期	2月27日	ユーロ圏	消費者信頼感	2月
2月14日	ユーロ圏	鉱工業生産	12月	2月27日	ドイツ	消費者物価指数速報	2月
2月16日	英国	小売売上高	1月	2月28日	ユーロ圏	消費者物価指数速報	2月

出所：ブルームバーグのデータをもとにNNインベストメント・パートナーズ株式会社作成

【本資料で使用している指数について】FTSE®はロンドン証券取引所グループ会社が所有する商標であり、NAREIT®はNational Association of Real Estate Investment Trusts（以下「NAREIT」）が所有する商標であり、EPRA®はEuropean Public Real Estate Association（以下「EPRA」）が所有する商標であり、ライセンス契約に基づきFTSE International Limited（以下「FTSE」）が使用します。FTSE EPRA/NAREIT Indexは、FTSEによって算出されています。FTSE、Euronext N.V.、NAREITもしくはEPRAは本商品の支援、推奨、販売促進を行っておらず、いかなる形においても本商品に関わりがなく一切の責任を負うものではありません。指数値および構成銘柄リスト内のすべての知的財産権はFTSE、NAREIT、Euronext N.V.およびEPRAに帰属します。NNインベストメント・パートナーズ株式会社は本商品の組成において、それらの知的財産権を使うために、FTSEから完全な許可を得ています。MSCIヨーロッパ指数は、MSCI Inc.が開発した指数です。同指数に対する著作権、知的所有権、その他一切の権利はMSCI Inc.に帰属します。ICE BofA Merrill Lynch・欧州ハイイールド・コンストレインドはICEが算出する指数です。同指数に対する著作権、知的所有権その他一切の権利はICEに帰属します。

【本資料に関する留意事項】本資料は、NNインベストメント・パートナーズ株式会社が情報提供を目的として作成したご参考資料であり、金融商品取引法に基づく開示資料ではなく、投資勧誘を目的とするものではありません。本資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。本資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。本資料に掲載された見解や予測は作成時における判断であり、予告なしに変更されることがあります。